



街角レポート

飛行船の町 土浦

ツェッペリン NT 号 76 年ぶりに土浦の空に浮かぶ。(ようやく来てくれました。2/6)

昨年の夏に来る予定が、ロシア上空の飛行許可が下りず海路にて運搬、前日の歓迎式典では強風のため飛行できず延期。

待ちかねた市民は、ハラハラドキドキの気持ちで飛行船の到着を待ちました。

午前 9 時 30 分すぎ、飛行船の姿が見えると「よかった。ヤッター。」と安堵の拍手。

詰めかけた市民約 2 万人は、飛行船のゆっくりとした動きにしばし見とれていました。

76 年前にはこの 3 倍 (236.6m) の飛行船が来たと思えば更に驚きが増します。

東京から臨時電車が出て 30 万人もの見学者が来たそうです。当時係留した木が 2 本残っているよと古老が教えてくれました。

地元では「飛行船の町 土浦」をまちづくりに活かそうと「エアシップタウン土浦構想」が持ち上がっています。ツェッペリン NT 号の故郷ドイツ、フリードリッヒスハーフェンではボーデン湖に面して飛行船による遊覧飛行や飛行船博物館、関連の精密工業が盛んだそうです。地理的にも似ている土浦で環境にやさしい飛行船をまちの活性化の起爆剤にしようと活動が始まっています。ツェッペリンカレーといった食文化の発信や風力発電など新エネルギーの開発に期待がかかります。

飛行船というと私の場合イメージするのは、宮崎駿監督の「風の谷のナウシカ」や「天空の城ラピュタ」「ハウルの動く城」といった作品に出てくる飛行船です。兵士や機材を運ぶ大型飛行船。戦争のためには使ってほしくありません。「平和」と「環境」のシンボルとしての飛行船であれば大歓迎です。

当日会場に行けなかった人のために、ホームページに飛行船の飛ぶ様子を載せました。

よろしかったらご覧下さい。

<http://www.kasumigaura.net/usr/kikuchi/oyog erukasumigaura/page/A0086.html>

(かすみがうら*ネット副代表 菊地敏夫)

